



山川中学校だより

自律 親和 創造

第1号

令和8年4月27日(月)

文責：谷 陽子

○令和8年度のスタートにあたって

新年度が始まり、早くも3週間が経ちました。この間、参観授業や学年部会、教育相談など、保護者の皆さまには温かいご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

本年度も、本校の教育活動に対し、保護者・地域の皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

校庭の木々が美しく緑を増していく中、生徒たちは新しい学級での生活を本格的にスタートさせています。4月は期待とともに緊張の多い時期ですが、生徒一人ひとりが焦らず少しずつ学校生活のリズムを整え、自分らしさをのびのびと発揮できるよう、教職員一同サポートしてまいります。

■本年度の教育活動について

本校がめざす教育についてお伝えします。



1 校訓

校訓とは、山川中学校の生徒が、学校生活を通してどのように成長してほしいかという「めざす姿」を短い言葉で表現したものです。この言葉には、創立以来の地域の皆さまの想いも込められています。

【自律】規律ある生活を送り、自分の言動に責任をもち、主体的に学ぶ生徒

【親和】「一日一善」の心で他者を尊重し、仲間と共に高め合える生徒

【創造】失敗を恐れずに挑戦し、実践と改善を繰り返して新しい価値を創り出す生徒

2 学校教育目標

上記のような生徒を育成するための本校の目標です。

「心身ともに健全で知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな創造的実践力をもった生徒の育成」

3 今年度の重点施策：創造的実践プロジェクト（3本の柱）

学校教育目標を達成するための具体的な方向性です。

(1) 規律ある生活と学習態度の確立（規律）

○ノーチャイムを生かした生徒の主体的な時間管理能力の育成

○学習規律（授業前の準備・授業に臨む姿勢・提出物の確実な管理）の徹底による落ち着いた学習環境の創造

○基本的生活習慣の定着を図る指導体制の強化

(2) 振り返りと学び合いを軸にした能動的な学習者の育成（学び）

- 「学びの主語は生徒」を前提とした対話的な活動と振り返りの習慣化（自己評価・次時への課題設定）
- 生徒と教員が協働して創る授業改善の推進
- 行事を「学びの場」と捉え、教職員の適切な支援のもとでの生徒主体による計画・実施・改善

(3) 山中生の強みを伸ばし、誇れる学校文化の創造（文化）

- あいさつ・礼儀・行事への本気度という山中生の強みの継承と発展
- 地域に誇りをもち、地域とともに歩む姿勢の育成
- 学校よさを可視化し、共有する取組の推進

令和8年度は、「規律」「学び」「文化」を教育活動のキーワードとして掲げ、生徒の成長を支えてまいります。

まず「規律」は、ルールを守り、自分の言動に責任をもつことです。誰もが安心して過ごせる学校は、一人ひとりが規律を意識して行動することで成り立ちます。本校のノーチャイムの取組も、その象徴の一つであり、自ら時間を意識し判断して行動することで、社会で求められる自己管理能力を育みます。

次に「学び」においては、「好き」や「夢中」を大切にしながら、自ら進んで学ぶ姿勢を重視します。変化の激しいこれからの社会では、正解のない課題に向き合う力が求められます。受け身ではなく、仲間と意見を交わしながら学びを深めていくことが、自分自身の未来を切り拓くことにつながります。

そして「文化」は、本校の伝統や日々の活動の積み重ねによって形成される「学校の誇り」です。学校行事に全力で取り組む姿や、仲間と協力しながらよりよいものをつくり上げようとする姿勢は、山川中学校の根幹をなすものです。この素晴らしい文化を継承し、さらに発展させてまいります。

これら3つの柱は、校訓である「自律・親和・創造」にもつながるものであり、生徒一人ひとりが社会の中で自分らしく生きていくための基盤となります。

全校生徒が「山川中で学べてよかった」と胸を張って実感できるよう、教職員一丸となって邁進してまいります。皆さまにおかれましては、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

